

# 花と緑の銀行だより

196号 2015.7



タイトル：「魚津のゆり」

撮影場所：長引野（魚津市）

## 目次

- ・花と緑の提言〈『豊かな自然と共生したまち』をめざして〉（魚津支店）……2
- ・活動事例〈「花づくりがつなぐ地域の結束」〉（立山支店）……3
- ・技術講座〈魅力的な花壇づくり2〉……4
- ・技術講座〈富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン②〉……5
- ・緑づくりコーナー〈庭木に利用する樹種の特徴と管理—ムラサキシキブとコムラサキ—〉…6
- ・情報コーナー〈「第25回森と花の祭典『みどりの感謝祭』に参加して」〉（富山支店）…7
- ・この人あり〈「みんなで楽しく」〉（砺波支店）……7



## 「豊かな自然と共生したまち」をめざして

花と緑の銀行

魚津支店長(魚津市長) 澤崎 義敬

魚津市は、県東部に位置し、富山湾に面する海岸から、毛勝三山や僧ヶ岳など標高約2,400m以上の山岳地帯に至るまで、直線距離でわずか25kmしかない大変急峻な地形から成り立っています。そして、山岳地帯に降り注いだ雨や雪は、豊かな森林を育んでおり、片貝川上流にある市指定文化財「洞杉」を代表とする群生林周辺は、片貝県定公園に指定されています。

さらに、その豊かな森林が水源となり、市内を流れる河川や地下水となって市街地を広く潤し、生活用水・産業用水として利用されるほか、緑あふれるまちの形成も担っています。

このように魚津市は、豊かな自然に恵まれ、市民の生活はその恩恵を受けて成り立っています。



写真1 魚津市指定文化財「洞杉」

この豊かな自然環境を守り未来へつなげていくため、魚津市では、里山林の整備や人工林の間伐など森林の整備・保全を行っています。また、景観保全に留意しながら自然公園等の整備を行い、訪れる人が自然に親しみやすい公園づくりを行っています。市街地周辺では、魚津駅等の駅前周辺の整備や、公園の緑化管理を行い、美しい都市景観づくりを推進しています。

花と緑の銀行魚津支店としましては、このような市の取り組みに併せ、地方銀行毎に身近な公園や空き地等の花壇の造成や、道路沿い等のプランターの設置を行い、花と緑で市内を彩っています。現在市内49か所に花壇が造成され、頭取・グリーンキーパーの皆様を中心に活動しており、美しい

景観づくりの一翼を担っております。

今年度は、おもてなしフラワー事業として、あいの風とやま鉄道魚津駅前にプランターを設置しました。駅を利用する地域の皆さんはもちろん、県内外から魚津市を訪れる皆さんの心を癒す場所になって欲しいと願いながら日々活動しています。



写真2 魚津駅前の「おもてなしフラワー事業」①



写真3 魚津駅前の「おもてなしフラワー事業」②

平成29年春に富山県で開催される第68回全国植樹祭が、魚津市の魚津桃山運動公園を会場として開催されることが決定しました。現在開催に向けての準備が進められているところですが、市といえども、参加される皆様の心に残るような「おもてなし」ができるよう、そして、自然豊かな魚津市の魅力を全国にアピールできるよう取り組んでまいりたいと考えております。

また、その取り組みは、地域の皆様と行政が協力しながら行っていく必要がありますので、頭取・グリーンキーパーの皆様には、培われた経験を活かし、より一層のご支援とご協力を心からお願い申し上げます。

今後とも、豊かな自然を守り未来へつなげていくことができるよう、地域の皆様と一体となって緑化活動を推進して参りたいと思います。



## 花づくりがつなぐ地域の結束

花と緑の銀行 立山支店

岩嶺地方銀行 頭取 佐伯峰之

岩嶺地方銀行は、立山町の岩嶺地区で頭取とグリーンキーパーあわせて6名が活動しています。岩嶺地区には、国内有数の急流河川といわれる常願寺川が流れ、立山連峰からの雪解け水が流れています。また、立山開山とつながりの深い、雄山神社前立社壇があり、古くから信仰の地として広く町内外の方が参拝に訪れます。

今回、岩嶺地方銀行の3つの取り組み「岩嶺寺駅に花を飾る」、「地域を巻き込む」、「宇宙イモの緑カーテン」について紹介したいと思います。

まず「岩嶺寺駅を花で飾る」取り組みを紹介します。岩嶺寺駅は、木村大作監督の映画「劔岳 点の記」の一場面にも使われた歴史と文化のある駅です。この駅は、「立山黒部アルペンルート」に向かう駅の1つであり、毎日約380人も多くの人に利用されています。町の「交通結節点」にもなっているこの駅に14個のプランターを設置し、電車を利用するみなさんに季節の花を楽しんでいただいています。マリーゴールド、インパチェンス、サルビア、チューリップ、シクラメン、ポインセチアなど、色とりどりの花がみなさんをお出迎えます。花の世話をするのは、頭取やグリーンキーパーだけではなく、駅員さんも巻き込んで、協力して水やりをしています。「映画のロケ地にもなった『岩嶺寺駅』を、花で飾ることによって、よりステキな駅にしたい。」そんな思いを持って日々活動しています。



写真1 岩嶺寺駅に花を飾る取り組み

次に、「地域を巻き込む」取り組みをご紹介します。前段にも書きましたが、岩嶺寺駅の駅員さんも巻き込んで花の世話をしています。岩嶺地方銀行では、駅員さんや駐在所の方に、花の世話のご協力をいただいています。また、地域のイベントで活動を紹介し、地域の人を巻き込んだ活動を心がけています。昨年度は、地区の「盆踊り大会」や公民館行事「ふれあい文化祭」で、岩嶺地方銀行の活動をPRしました。また、イベントでは数量限定ではありますが、花苗を配り、地域のみなさんに興味を持っていただきました。花苗を受け取った方が笑顔で「大切に育てます。」と言ってく

れるとこちらもとてもうれしい気持ちになります。



写真2 岩嶺公民館前の花飾り

最後に、「宇宙イモの緑カーテン」をご紹介します。「緑のカーテン」は、つる植物をネットに巻きつけ、カーテンのように育てたものです。主にゴーヤーやアサガオ、ひょうたんを育てています。また岩嶺地方銀行では、「宇宙イモ」で「緑のカーテン」を作っています。「宇宙イモ」は、山の芋科で中南米の原産と言われており、つる性でピンポン玉より大きなイモがなります。ゴーヤーやひょうたんよりも葉が大きいので、夏中日光に当たっても、青々とした葉が保たれます。岩嶺公民館の日当たりがよいことに目をつけ、何とかしてこの特性を生かせないかと思い、5・6年前に「宇宙イモの緑カーテン」の取り組みをはじめました。「宇宙イモの緑カーテン」を地域のイベントで紹介したところ口コミで広まり、今では50戸の家庭で取りまわっています。これからも、3つの取り組みを柱として、いろいろな取り組みが地域の中で広がってほしいなと思います。



写真3 宇宙イモの緑カーテン

以上、3つの取り組みを紹介しました。岩嶺寺駅にかわいらしく咲く花は、訪れる人の癒しとなります。地域を巻き込むことにより、信頼関係を築き上げることで、地域の結束が強まっています。そして「宇宙イモの緑カーテン」のように、新しい取り組みにも挑戦したいと考えています。地域のみなさんと一緒に、これからも活動を続けていきます。

# 魅力的な花の組み合わせ

## 花と緑の銀行 普及研修部

県内の花壇を見て回ると、とても魅力的な花の組み合わせに出会えます。思わず見とれてしまうような花の組み合わせを紹介します。

### 1. 白色が花の色を引き立てる！

白い花や葉を植えておくと、他の花の色を引き立てます。ハツユキソウとランタナを組み合わせると、ランタナの橙色がより鮮やかに映えます（写真1）。



写真1 ランタナの橙色を引き立てるハツユキソウ  
(射水市 浅井ひとみさん宅)

また、ハツユキソウの白には、花壇全体を明るくする効果もあります。さらに、ともするときつくなりがちなサワギキョウやハゲイトウの赤を爽やかな彩りに和らげてくれたり、真夏に清涼感を演出してくれるなど、名脇役ぶりを遺憾なく発揮します。



写真2 花壇を明るくするハツユキソウの白  
(富山市 寺崎啓乃さん宅)

白いニチニチソウを花と花の間に配置すると、サルビア・スプレンドゥスの赤やサルビア・ファリナセアの青を鮮やかに見せるだけでなく、デザインをより際立たせる効果も出ます（写真3）。



写真3 白いニチニチソウがデザインを際立たせる  
(植物園内 ステップアップ研修花壇)

### 2. 高さの違いを活かす！

高く咲き上がるエレムルスとこんもりと咲くハルシャギクを組み合わせると、絶妙なバランスが生まれます。水田の緑を背景に白く咲き上がるエレムルスの株基をハルシャギクの柔らかい緑葉と赤と黄色の鮮やかな花がふんわりと覆い、幻想的な空間美を醸し出しています（写真4）。



写真4 エレムルスとハルシャギクのコラボ  
(南砺市 桐木花と緑の活動推進協議会)

### 3. カラーリーフの魅力！

カラーリーフを上手に組み合わせると、色鮮やかで長く楽しめる花壇を作ることができます。カラーリーフの代表はなんといってもコリウスです。

2m四方の外側を赤系統のコリウスで囲み、中央に白いエキナセアや黄色のジニアを組み合わせた、素敵なミニ花壇に出会いました。コリウスも赤系統で統一したことで、華やかさに溢れているが落ち着いた感じにまとまり、とても魅力的です（写真5）。



写真5 赤系統のコリウスを組み合わせたミニ花壇  
(射水市 小杉花作り同好会)

ランタナは花だけでも楽しめますが、斑入りのものはライトイエローのカラーリーフとしても使えます。明るく爽やかな黄色がサルビア・ファリナセアの青を際立たせ、エレガントな空間を演出してくれます（写真6）。



写真6 ランタナ斑入りイエローとサルビア・ファリナセア（青）との組み合わせ  
(射水市 黒河地域振興会)

## 富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン②①

### サルビア・ネモローサ

職藝学院

教授 渡邊美保子

サルビア・ネモローサは、ヨーロッパ原産の寒さに強いシソ科の宿根草です。日当たりと水はけの良い所を好み、乾燥にも良く耐えます。草丈は50cm前後で、5月から6月にかけて開花します。原種の花の色は青紫色です。お天道様に向かって光を浴びている時の姿は、薄い花弁に日差しが透けてピカピカ光っているように見えます。ここ数年は、さまざまな色の園芸品種が流通するようになりました。園芸品種の花の色には、白、桃紫色、濃い紫色などがあります。品種は一年ごとに株が小さくなり、知らぬ間に消えてゆくものが多いのですが、原種は、それより寿命が長いのでお得感があります。

サルビア・ネモローサの花茎には、びっしりと小さな小花が付きます（写真1）。ラベンダーの草丈を半分にして小太りになったような草姿といましようか。花の付く茎も深い紫色に染まります。小花は、およそ1cm弱の間隔で茎をぐるりと一周するように5つか6つほど水平に並び、外向きに花を咲かせます。下から順に咲き始めて上へ上へと咲き進みます。先端まで咲き終わる頃には、一番下の段の最初に咲いた花には、ゴマ粒の半分ほどの大きさの黒くて丸い種ができています。花茎は咲き始めてから咲き終わるまで、倒れることなく、しゃきっと背筋を伸ばした貴婦人のような姿を保ちます。二番花を楽しむ場合は、6月中旬頃、咲き進んでいる花穂を葉の上で切りますと、その横から順番待ちをしている脇芽が2本伸びてきて、7月中旬頃また花を咲かせてくれます。株全体はおまんじゅうをつぶしたように少し横に広がります（写真2）。二番花たちは、咲きっぷりに気取りがなくてまるで別人のようです。人目を気にせず

咲きたいように咲いて第二の人生を楽しんでいるようにも見えます。



写真2：6月中旬に切り戻して7月中旬に再び開花したサルビア・ネモローサ。白い花はガウラ。

サルビア・ネモローサに何年も長く咲いてもらうコツは、完熟牛糞堆肥や有機質肥料を入れて土を作り、苗を秋に植えつけることです。秋から翌年の春にかけてじっくりと分解された有機物は、翌年動き出す新芽にタイミング良く吸収されます。そのため、充実した株に成長し、花の咲き具合や色が鮮やかになります。

サルビア・ネモローサは、青紫色の小花の付いた花茎が地面から何本も垂直に伸びて、群がっているように見えるため、花壇の手前に植えると目を引きます。一株よりも奇数株をグループで植栽すると、その後ろに配置する植物が引き立ちます。茎の曲線が柔らかく見えるガウラの品種や、その後ろに、ジギタリス、バーバスクム・ニグラムなどの直線の花茎を持つ宿根草を組み合わせると花壇全体に直線と曲線が混ざり合い美しく見えます（写真3）。



写真1：サルビア・ネモローサ 6月初旬



写真3：サルビア・ネモローサ（手前）。5月末。富山県総合運動公園

## 庭木に利用する樹種の特徴と管理—ムラサキシキブとコムラサキ—

日本樹木医会富山県支部

樹木医 西村正史

秋に雑木林の中を散歩していると、紫色の美しい実をたくさんつけている樹木が目に入ってきます。この樹木はムラサキシキブかコムラサキのどちらかです。両種とも実に観賞的な価値があるため、庭木などに広く利用されています。今回はこの2種類の樹木を紹介します。

### 1. 特徴

両種ともシソ科ムラサキシキブ属の落葉性低木で、日本各地の林などに自生しています。同じ低木でもムラサキシキブの高さは2～3mであり、コムラサキの高さはムラサキシキブの半分程度です。また、ムラサキシキブの枝はしだれませんが、コムラサキは枝がしだれるという特徴があります。

両種とも6月頃に薄い紫色の小さな花を葉の脇にたくさんつけますが(図1、図2)、地味なためあまり目立ちません。ところが、秋になると枝に沿って光沢のある紫色の直径3mmほどの球形の実がたくさんなります。コムラサキの方がムラサキシキブに比べてはるかに多くつきます(図3、図4)。両種の違いは葉柄と花柄のつく位置と葉の鋸歯で区別できます。前者では、ムラサキシキブは近接

していますが、コムラサキでは少し離れています。後者では、鋸歯が全葉にあるのがムラサキシキブであり、葉の上半分だけにのみあるのがコムラサキです。

### 2. 維持管理

両種ともやや湿り気のある土壤で、日のよく当たる場所からやや日陰の場所で、よく育ちます。そのため、土壤が乾燥した場合には散水する必要があります。両種とも自然樹形を楽しむことが基本ですが、枝が混み合っていれば落葉期に整理してください。落葉期である晩秋から冬の間には剪定するのは、両種とも花芽が5月頃に新しい枝に形成されるためです。花芽の形成以降に剪定すると、花芽のある枝を切り落とすことになるので、花や実が少なくなります。両種とも剪定に非常に強いので、樹形を一定の大きさに保ちたい場合には落葉期に剪定をするよう心がけてください。

※写真はすべて富山県中央植物園で撮影したものです。



図1 ムラサキシキブの花 (2015.6.16に撮影)



図2 コムラサキの花 (2015.6.16に撮影)



図3 ムラサキシキブの実 (2010.10.29に撮影)



図4 コムラサキの実 (2010.9.24に撮影)



## 第25回 森と花の祭典 『みどりの感謝祭』に参加して

花と緑の銀行 富山支店

野積地方銀行 頭取 本田 秀雄

このたび「日本花の会」より緑化推進運動功労者に推薦していただき、5月9日（土）に日比谷公会堂で開催されたみどりの感謝祭式典に出席させていただきました。

事前に行われたリハーサルは、とても慎重に行われ何度も繰り返し返されるのを見ていると、私の緊張もだんだんと高まってきました。

本番は、まず主催者代表である林芳正農林水産大臣の挨拶で始まり、名誉総裁である秋篠宮殿下のお言葉をちょうだいしました。その後、苗木と花の特別贈呈が始まり、花いっぱい運動の代表として農林水産大臣よりクスノキとサンパチェンスをいただきました。クスノキは自宅で、サンパチェンスは職場であ

### 本田 秀雄（富山県）

花いっぱい運動の代表

緑豊かな山間の宮ノ下は、通緑化が進行し地区の活性も薄れかけていたため、花で活気づけた花の街づくりを行い、明るく住みよい地域環境を作ると同時に協働作業の楽しさや人と人の心れあいの大切さを伝えるため、昭和50年に宮ノ下村づくり会が結成されました。農道沿いを中心に花の組み合わせ、植栽管理、季節的な演出などに慣れ、海側の田園風景ともよく調和しています。総延長3000mの花街道は訪れた人々の心を癒す場となっています。高齢者を中心に活動していますが、これをサポートする周辺住民の温かい支援と協力があり、地区内の連携も良く取れています。また八尾町全体に花いっぱい運動の推進機運が高まり花と緑の地域づくり活動推進協議会が結成され、花づくりが町全体の広がりを果たしました。さらに柏市町村や個人宅への波及効果も著しく、各種催事の開催や世代を超えた交流の場を提供しています。本田さんは、特に地域の花づくりの指導者として、地域活動にも積極的に取組んでおり、指導に当たっている救護施設「八尾園」も各種コンクールで優秀な成績を取っています。

贈呈：農林水産大臣 クスノキ/サンパチェンス

る救護施設八尾園の多くの人たちの目に触れる場所で大切に育てたいと思っています。壇上では、「富山から全国を代表して出席していただきました。」と紹介され、とても貴重な体験をさせていただきました。

秋篠宮ご夫妻がお声を掛けて回られた際に「どうして花を作っておられるのですか。」と問われ「花に魅せられてこの歳まで花を育てております。」とお答えすると「とにかく元気に長生きしてお国のために働いて下さい。あなたは国の宝です。」とあたたかいお言葉をいただきました。この会話は、夢の中での出来事のように思え、あまりの感激に涙が出るほどうれしく思いました。

さらに、以前私が所属する『宮ノ下村づくり会』が全国花のまちづくりコンクールで農林水産大臣賞の大賞を受賞した当時大臣であった大島議員が、衆議院議長として出席されており「お久しぶりです。お元気でなによりです。」と声をかけてくださいました。とても懐かしく、覚えていただいていたことにとっても感激いたしました。

このような立派な式典に参列出来たことは、生涯忘れることの出来ない体験であり、日本花の会の皆様、関係者の皆様のおかげであります。このご恩に報いるため、花と緑のために、一生懸命頑張りたいと思っています。



〈この人あり〉



## みんなで楽しく

花と緑の銀行砺波支店 中野花と緑の推進協議会

グリーンキーパー 今井 久美子

私たちの公園には一筋の小川が流れています。蛍が舞う季節には夜にも憩いの場となるようにと造られたものです。

小川沿いにはグミやクワ、ザクロ、アケビなど実のなる木が育ち、また、近くにある幼稚園の親子の通園路にもなっており、園児たちの教材としても親しまれています。

そのせせらぎの音を聞きながら、時には口には含みつつ、老人会、婦人会や地域の会員の皆さんと共に「みんなで楽しく」をモットーに花壇のお世話をしています。また、四年前に花壇面積が広がったのを機にステップアップ研修を受たり、プラグ苗に挑戦したのですが、温室の無い私たちににとってはなかなかうまくいかず、加えて、土づくりも大変でした。今年の三月には会員四〇数名が集まり、プラグ苗の講習会を開催し、ポイントを教えていただいたおかげで、昨年より元気に育ちました。

六月からは植え込みをした花の管理が始まっています。毎日早朝六時から、会員持ち回りによる水管理、花がら

摘み、草むしりと十月の地区民運動会まで行います。毎年運動会頃には見事な花壇になっており、「いつもこの時期にコンクールがあればいいネ」と言い合ったりしています。

また、今年は桜の木（越の彼岸）を松川沿いの老木の間約三百メートルと、新明金仏様広場のまわりに植樹をし、管理をします。五年後にはきれいな花を咲かせてくれるものと思っています。

今年度もコンクール終了後、市内優秀花壇の見学、県内最優秀賞の花壇見学、県外研修等に参加し、食事会や反省会で懇親を深め、楽しい一年にしたいと思います。



表紙写真：「魚津のゆり」 撮影場所：長引野（魚津市）

裏表紙写真：「木陰のモミジカラマツー8月上旬、富山市有峰にて」…写真提供 長谷川幹夫



「木陰のモミジカラマツー 8月上旬、富山市有峰にて」



**花と緑の銀行だより 196号**

発行日 平成27年7月

編集発行 公益財団法人 **花と緑の銀行**

〒939-2713 富山県富山市婦中町上轡田42

TEL 076-466-2425

FAX 076-465-5923

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org/fgbank/>

**富山県中央植物園**

〒939-2713 富山県富山市婦中町上轡田42

TEL 076-466-4187

FAX 076-465-5923

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org/>

**県民公園頼成の森**

〒939-1431 富山県砺波市頼成156

TEL 0763-37-1540

FAX 0763-37-1450

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org/ranjyounomori/>

再生紙を使用しています。